

第1回 第2次日野市図書館基本計画策定委員会 議事概要

■日時：平成24年4月20日(金) 午後3時10分より

■場所：市役所501会議室

■出席者：窪川委員、田中委員、野田委員、廣澤委員、松尾委員（委員長）、大杉委員、
教育長、増子委員(副委員長)、宇津木委員(館長)、
(事務局) 鬼倉、清水、佐々木、原、星、

1. 開会挨拶

教育長・暮らしのリアリティ

- ・図書館は未来を切り開く礎、人々の何を支えなくてはならないか。
- ・わが町、人々の思いを受け止める。ここを支えよう。図書館の枠だけでは立ち行かない。図書館だけで整えるのではない。
- ・教育資源、学校、市民の力、首長部局、エネルギー
- ・「願いは必ずかなう」市長の言葉

館長：1年間の策定期間を含む6年間。市民と一緒に作りあげる計画。皆様とわかりやすい、公平に利用できる日野市の図書館の基本とは何かを時間をかけて丁寧に議論したい。

2. 委員自己紹介

委員①：図書館窓口の人が非常に親切。本来の図書館のあり方、若い人(次世代)が積極的に来られるような「図書館っていいよね」と言ってもらえる、(若い人がその図書館で学びいずれ)ノーベル賞が出るような図書館を作っていきたい。応募する前に財政はどうなっているのかと電話で聞き、厳しい財政事業を知った。次世代型の図書館を目指したい。

委員②：日野市は、立川・八王子と違い、図書館活動で大変ユニークなまちと聞いた。

それは全国に展開したモデルなのか。ユニークな日野市をアピールするようなものにしたい。

委員③：もっと本にかかわりたい。ミニバスのようなものがあったらどんなにいいか。(バス停の目の前)また、TUTAYAのような、郵送で送るサービスが、有料でいいからあると良いと思う。少しでも市民に使いやすく、地震で本が落ちてこない安全な図書館が良い。

委員④：地域性がどう強くありつづけるか。先週被災地に行ってきた。地域性をテーマに日野市立図書館は触媒、モデルケース、何か提案できる。高齢者の孤独死、外に出る機会がない。外にふらっと行ける積極性が必要なのでは。本を探す場所、集うことが出来るような。人の動きも変わってくる。移動図書館を公民館へ送るとか、行動の発生源、可能性もある日野市立図書館も外へ。

委員⑤：日野市の2次計画については、さらに発展するような方向、日野市民が図書館があってよかったと思えるようなものにしていきたい。

委員⑥：市民公募委員さんの熱い思い。楽しい1年を。

委員⑦：新しい船出になろうかと思う。図書館がどんなことをしていくのか、日野らしく、市民の方も職員の方も、計画を作っただけでなく、みんなで見直していけるよう、バイブルとなるような生きた図書館計画を策定したい。

(事務局自己紹介)

3. 委員長・副委員長の選出

委員長に松尾委員が、副委員長に増子委員が推薦により選出された。

(教育長退席)

4. 第1次の計画策定について

- ・事務局による説明
- ・委員長による多摩地域図書館の資料のポイント説明
- ・質疑

委員④：不明な点について、ここからもれた点の位置づけは何か。

→(事務局) 取り組みを続けている、あるいは、存続中のものである。

委員①：図書館費が、財政で調べたのとは違うのはなぜか。

→(事務局) 財政の回答には人件費が入っている。図書館運営費など全てを入れると確かに5億円を超えている。

5. 第2次図書館基本計画策定(案)について

- ・事務局による説明。

第2回策定委員会は5月11日(金)午前中。基本的な考え方、どのように進めていくか等。

- ・質疑

委員長：協議会より提言をされている。これらも議論の中に入れて欲しい。

委員⑦：策定委員会をしばらくの形にはしたくない。

委員長：計画策定の前提 委員会としての設置

計画に対しての工程表がほしい。2020プランと行財政大綱の図書館部分がほしい。

→(事務局) 第2回会議までに準備する。

委員④：前回の第1次に参加している人はいるのか。

→(事務局) 鬼倉と清水の2名。

委員④：5年間で、どれくらいのスピードがあったのか。議論していく中で、何を6年後に実現させるのかを優先順位を決めて、早期実現のため重点を絞り込んで進行管理をして欲しい。

→(事務局) 震災もあり、状況が変化している。第1次の時は、あれもやりたいこれもやりたいで計画がされ、その後の毎年の進行管理が出来ていなかった。

最大の反省点である。2次計画はこの年にはこれを実施するという到達点を持つような進行管理を徹底するように改めたい。

委員①：1次計画の延長で第2次計画を策定するのか、1次と2次は別か。2次計画で絞り込んでいいのか。

→(事務局) それもみんなで決めていきたい。

委員①：財政問題もあるが、住民サービスなので幅広くきめ細かく、資源は絞り込んで有効に使ってきたい。

委員②：1次計画をベースにしながら、2次計画を発展させて作っていくという風に思いました。

委員長：1次計画で第1章は日野市立図書館の現状、第2章は基本理念・方針で、これは日野市

の図書館の基本で幹のようなものであるから、第2次でも第1次を下地にして、第3章と第4章の重点的な取り組みなど、見直ししながら発展すべきところを見ていく。

委員②：図書館協議会は図書館法第14条に基づいているのですね。第2次日野市立図書館基本計画は法的にどういう根拠か。図書館法か日野市の条例であるのか、2020は条例化されている。

→（事務局）この策定委員会は設置要綱に基づく。

委員①：設置要綱の手続きは？意思決定するのは、どこか。

→（事務局）教育委員会にかけている。

副委員長：今、委員②のご質問は、図書館の基本計画はどのような位置づけかということをお尋ねなのではないか。

委員②：図書館協議会は根拠があるみたいだが、基本計画は根拠がはっきりしない。

行政が法律なり条例で明確に決めてもよいのでは。

→（事務局）組織的には、教育委員会の要綱である。

委員②：要綱というのは教育委員会で決めているのですね。

委員長：第2回の進め方として図書館の基本的な考えは、事務局の提案を受けながら提案をするのか。たたき台を用意していただいて、提案をしてもらうのか。

→（事務局）そういうことになる。

委員長：コンサルの守備範囲はなにか。

→（事務局）会議の記録、文章化、図化。

委員長：第1次の計画策定結果はワードではなく、エクセルで一覧表を作成してほしい。これではイメージとして分かりにくい。その結果で、これを議論のたたき台にしていく。

委員⑦：コンサルは必要なのか。

委員②：役所で流行っている。

委員③：民間の図書館のあり方のアドバイスをしてもらうのか。

委員②：2020の時も資料の準備してもらった。

館長：コンサルからアドバイスを受けるのではなく、計画に必要な情報収集のため。

→（事務局）コンサルに丸投げではなく、策定委員会で形にしていくことになる。

委員②：情報とは、他の市町村のデータ等か。

館長：作業的な事も含めて、次回に分かりやすく、会議を進めやすくするためのもの。

委員①：そういう情報は、図書館協議会ではもっていないのか。

委員⑦：図書館協議会は会議で、事務局が図書館なので、そういう情報はもっていない。そんなに図書館に関する情報収集する能力を持っているところがあるのか。

委員長：事務局の援助をしてもらうということである。

委員⑦：つまりメインではないということになるのか。

委員④：コンサルに情報収集を頼んでいいということか。

委員⑦：お金がかかることになる。

委員③：税金であるから、有効に使わないといけない。

6. その他

・事務局より、今後の予定について。

第2回策定委員会は506会議室にて、議題は「図書館の基本」のフリートーキングとなる。
第3回以降のみなさんのご都合はいかがか。

委員長：委員会の開催頻度はどのくらいか。

→（事務局）月1～2回。

副委員長：前半は、しっかり論議した月2回ペースか。

委員②：みんながそろるのが難しいが、5月11日は欠席させてもらう。2回先くらいまで予定しておくとうい。

委員①：夜間か土日の会議はあるか。

委員長：私は金曜日、土日、特に日曜日はない方がありがたい。勤務時間内の方がよい。

委員①：1回は平日の日中に、もう1回は平日の夜はどうか。

→（事務局）では、第3回は5月25日（金）午後6時30分～8時30分としたい。

館長：夜間は、事務局は全員出られないかもしれない。

副委員長：年間13回行うのか。（編注：18回）パブコメもあり、どういうスケジュールになるのか。最初は密度を濃く検討を行っていきたい。

委員長：タイムスケジュールもあわせて知らせて欲しい。

副委員長：事務局の職員はPTを組み、昨年11月から活動している。基本的な考え方は、基本的なあり方ととらえて、事務局からはどんな提案が出るのか、職員は約40人、嘱託は約70人（編注：24年度から約50人）、100人強の職員がどんな風に考えているのか。日野市の基本は何なのか。2回位かけて、サービスはどうなのかと、次々展開出来る。

・事務局より、委員報酬支払方法について分割してもよいか伺う。9月末、3月末の2回払いとすることを確認。

以上